

大沼法竜著

方便よき
真実の之
淨土真宗



敬行寺發行



昭和 48 年 78 才

除かれた空感は不_レ人_ニは

唯除五逆誑_レ正法

行塔北僧法龍



若_レ不生者不取_レ正覺

故は北_ニ伴_レ驗_レは統_レ封_レに_レない

た
め
に

し
ゆ
の

ひ
り
き

ほ
う

そ
う

ひ
ろ
く

ほ
ご
こ
す

く

ど
く
の

た
か
ら
と

廣

施

功
徳

徳
実

凡俗法龍



たどひ女をもろくなくせくどくをふかに おくとも

彼令之身止諸苦毒中

わがまじようほしうとんとしてしはびてついにくや

我り朽進忠終不悔

外俗尼僧 法龍



は し が き

◎ 合掌、南無阿彌陀仏、なむあみだぶつ。私がお念仏しながら書いていますのですか
ら、読んでくださる方々も、お念仏を称えながら読んでください。宗教は、抜苦与楽
であります。苦毒の中におりながら苦のわからない人間は、晴れた世界を知りませ
ん。光明無量の作用で、苦を苦と知らしていただいて苦を抜いていただき、寿命無量
の作用で無限の樂を与えていただくのです。

◎ 浄土真宗は絶対他力といいますが、絶対の自力のつきた後に頭われるのが他力不思
議であります。阿彌陀さまは絶対の慈悲と申しますが、裏には絶対の智慧がありま
す。悲智円満なお方でありますから、妄愛は赦されません。曖昧な信仰を赦せば、絶

対の慈悲ではありません。

◎ 六字の尊号、南無阿彌陀仏は、阿彌陀とは光明無量の智慧と寿命無量の慈悲の覺體、空間的無辺、時間的無限の真理であります。それを覺つたお方が仏、この阿彌陀仏が無智無明の私を救わんがための無縁の大悲とは知らなんだ、お任せ致しますと信順したのが、南無の二字であります。信順無疑したときは、仏凡一体になったのでありますから、明らかな智慧を信受したのですから愚痴がなくなり、深い慈悲を諦得したのですから不安がなくなり、ありがたい、勿体ないと感謝法悦の生活になり、真俗二諦の行儀にならなければ如実の信とはいえないのであります。

◎ 六字の徳号を開説したのが、第十八願であります。光明無量に照らし出されたのが抑止門の八文字の唯除五逆誹謗正法、寿命無量の慈悲に攝取されたのが若不生者

不取正覺の八文字、信順無疑し南無したのが至心信樂欲生我國の八文字であります。十方衆生よ自惚れるなよ、ひとり残らず逆謗の屍であるごとく自覚を促してあるのです。自分が逆謗の屍とは知らなんだと驚いたとき、自力の機軸が捨たり、如実の信となり、第十八願を諦得したのであります。

その境地に到達し切らない、自惚れのやまない、聞損の機が第二十願、第十九願、八万の法蔵と桁を落としているのです。八万の法蔵はこの聞損の機を調機誘引して、方便から真実に誘導してあるのですから、この道を通らなければ不退の位まで進まれないのであります。だから聖人は「真仮を知らざるによりて如来広大の恩徳を迷失する」と仰せられたのであります。このたび浄土真宗か浄土仮宗かという題で二百五拾の解説をして、方便から真実に誘導するのであります。

浄土真宗と看板を掲げていまして、信楽開発していなかったら浄土仮宗です。法は尊高であっても、機に不安があったら助かっていないから浄土仮宗です。

聖人は「無上の妙果の成じ難きに非ず、真実の信楽、実に獲ること難し」、是を以て無上の功德、値遇し難く、最勝の浄信、獲得し難し」と仰せられてあるのに、どなたも難しいとおっしゃらないのは、どこか抜けたところがあるのではありませんか。あのお言葉を無視して、他力だから易いとおっしゃるのは、実地の求道をなさったことがないから妙味が受け取れないのではありませんか。なるほどそうか、そうかと合点して素通りしておいになるから、如来如実の言が聞こえないのではありませんか。

名号に向いておれば、みな第十八願の道俗だと思っておられましようが、第十九願の万行随一の念仏もあれば、第二十願の万行超過の念仏もあり、信仰が徹底し、仏凡一体になった第十八願の自然法爾の念仏もあるのですよ。真仮を知らないのですか

ら、眞仮の門戸を知らず、邪正の道路を弁うることなしに当たりはしませんか。



浄土眞宗とは実地の求道をして、仏智が満入して仏凡一体を体験し、現生不退で心命終した大満足の境地ですよ。

浄土仮宗とは觀念の遊戯をして、感情がお聖教やお言葉に調子を合わして、身命終の往生を樂しんでいる信仰をいうのですよ。

聖人が実地の求道をなさって後生が苦になり、煩悶をし、聖覚法印に「生死の苦海を渡す舟人は、法然上人より他にない」と聞かされて、訪ねられるまでは無明の闇に閉ざされて苦悶し、「教の理致をきはめて、これをのべ給ふに、たちどころに他力摂生の旨趣を受得し、飽まで凡夫直入の真心を決定しましたしけり」。たちどころには、何時とはなしではありませんよ。法然上人の前に行かれるまでは無明の闇、聞き開かれたときが、聞即信の一念、「無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり」。五劫

思惟しゆいの願がんは親鸞しんらん一人にんがためなりけりの大慶喜だいきょうきを得えて歸かえられたのですから、開発かいほつしたか、しないか判わからないような信仰しんこうではありません。行いかれる前まえが信前しんぜん、歸かえられるときが信後しんご、この水際みずぎわを鮮あざやかに諦得たいとくされたからこそ、真仮ほんものの分際ぶんぎわを撰別わけされるのが聖人しようにんの出世本懷しゆつせほんかい、真ほんの使命しやくめでありました。

その真実無我しんじつむがの大満足だいまんぞくの境地きょうちに到達とうだつするには第十九願だいじゅうくわん、第二十願だいじゅうごくわんの方便ほうべんを通とおらなければ真実しんじつに入はいれないと開覚めざめしてみれば、彌陀みだの本願ほんがんから釈尊しゃくそんの説法せっぽうから七高僧しちこうそうの教示きょうじまでが、みな方便ほうべんから真実しんじつに誘導ひきこむする御教化ごきやう化であつたことに驚おどろかれたのでありました。

ところが、話はなしがわかつたのは信仰しんこうではありません。言葉ことばでなければ導みちびかれませんが、言葉ことばを離はなれなければ、不思議ふしぎの仏智ぶつちは諦得たいとくできません。真似まねから真物ほんものになるのです、眞物ほんものから本物ほんものになるのです、方便ほうべんから真実しんじつに入いるのです。話はなしから実地じつちの求道きうどうになるのです。権実真仮しんぜんしんごを知らなければ、仏法ぶつぽうの妙味みょうみを諦得たいとくしていません。

今いまからにせもの飯宗ひとの人たちのきもち氣持ちと、ほんもの真宗ひとの人たちのきもち氣持ちとをひかくたいし比較対照しようしてみますか
ら、じぶん自分はどのどの位置いぢにいるかげんどう検討してぜんしん前進してくださいよ。

1 飯け頭あたまががってん合点して、ほう法はなしの話をりかひ理解しただけだけのしんこう信仰。

真しん實地じつちにきあうどう求道して、だいまんぞく大満足をしたしんこう信仰。

2 飯け晴はれたのやらやらく暮れたのやらやらわわからぬしんこう信仰。

真しんうんとともすんともいわななかったじしやう自性が開かい発はつしたしんこう信仰。

3 飯け信前しんぜんのもの者が信後しんごのまね真似をしている贗物にせもののしんこう信仰。

真しん信前しんぜん信後しんごをあざ鮮やかにし知らしていただいたいたしんこう信仰。

4 飯け何年なんねん経たつてもおな同じいぢ位置にいて、ちよつと一寸も進すすみ切きらないしんこう信仰。

真しん信仰しんこうがすす進むというのは、き聞きけばき聞きくほど有あり難がたくなった信仰が、き聞きけばき聞きくほ

ど動どうかぬこころ心が見みえてきて、しんじよく寢食を忘わすれてきあうどう求道するようになることです。

5 飯け後生ごしやうがだいじ一大事にならぬ信仰しんこう。

真しん 罪ざい悪あく観かんと無む常じょう観かんに攻せめたてられて、必ひつ死しの求きゅう道どうののち後ごに開かい発はつした信しん仰ごう。

八

6 仮け 仏ぼつさまの仰おほせに間ま違ちがいと素す直なおに聞きいている信しん仰ごう。

真しん 素す直なおにい心こころが照てらし出だされて、三じよ定じゆ死しの求きゅう道どうののち後ごに素す直なおに信しん順じゆんした信しん仰ごう。

7 仮け 此この世よはどうもなれないから、死しんだらお助たすけと死し後ごを楽たのしんでいる信しん仰ごう。

真しん 現げん在ざいの延えん長ちやうが未み来らいですから、現げん在ざいの開かい発はつののち者ものは未み来らいは救すくわれないと求もとめ抜ぬ

いた人ひとの信しん仰ごう。

8 仮け 信しん前ぜん信しん後ごののち水みず際ぎわののち人ひとの信しん仰ごう。

真しん 一いっ念ねんの信しんを突とつ破ぱさされた人ひとでなければ、信しん前ぜん信しん後ごののち水みず際ぎわは立たたないのです。

9 仮け 何い時じとはなしに話はながわかっただけですから、切きれ味あじのない信しん仰ごう。

真しん 三さん世ぜの業ごう障じやうが一時じに罪つみ消めえたのですから、信しん前ぜんの足あしどりがよくわかるのです。

10 仮け 墮おちる者ものをお助たすけと話はながわかっただけですから、求きゅう道どうにも報ほう謝しゃにも真しん剣けん味みが

ない。

真しん罪惡深重ざいあくしんじゆうに驚おどろいたのですから必死ひつしの求道きゆうどうをしているから、必死ひつしの報謝ほうしゃをするのです。

11 仮け若存若亡にやくぞんじやくもうの信仰しんこうです。

真しん法ほうを見るままが機こころ、機こころを見るままが法ほうですから、常住不変じょうじゆうふへんの慶よろこびです。

12 仮けお助けたすけの法ほうを眺ながめているだけですから、機こころの晴はれた天地てんちを知らしないのです。

真しん佛ぶつ智ちが満まん入にゅうしたのですから、晴はれて大満足だいまんぞくをしているのです。

13 仮け晴はれて満まん足ぞくし切きった喜よろこびのない信仰しんこう。

真しん実地じつちの求道きゆうどうをしているから、仏ぶつ凡ぼん一たい体たいの大満足だいまんぞくがあるのです。

14 仮け死しんだらお助けたすけで、いま撰せん取ときされていいないから、凡ぼん夫ぶは喜よろこべるものでないと

思おもっている信仰しんこう。

真しん無上むじょうの功徳くどくを具足ぐそくしたのですから、大慶喜だいきょうきの生活せいかつをしています。

15 仮け寢食しんじよくを忘わすれて求道きゆうどうしたことはない信仰しんこう。

真しん必死ひつしの求道きうどうをしたときの苦くるしさは、人世じんせいに比較ひかくするものがない。もう一度どく繰く返かえしてみようとしても、心こころの底そこからほやりほやり微笑ほほえめる世界せかい。

16 仮け自分じぶんは宿善しゆくぜんが厚あついと自惚うねほれている信仰しんどう。

真しん信前しんぜんでは誰だれでもみな自惚うねほれているのです、三千世界せんせ最第一さいだいいちの悪魔あくまが自分じぶんであつたと知しらされた時とき、はじめに摂取せつしゆされるのです。

17 仮け機こころを見れば手間てまがかかると、機こころを包つつんでいる信仰しんどう。

真しん包つつんでも包つつんでも、噴ふき出でる悪性あくしやうのままが摂取せつしゆされたのですから、慶喜きやうきに絶たえ間まがないのです。

18 仮け悪人あくにん正機しょうきの悪人あくにんを、三毒ざんぷくの煩惱ぼんのうとしか知しらない浅あさはかな信仰しんどう。

真しん自分じぶんが第十八願だいじゅうはちがんから除のぞかれた逆謗ぎやくぼうの屍しかばねであつたと深信じんしんさされたのです。

19 仮けこの世よで助たすかった自覚じかくのない信仰しんどう。

真しん二種しゆじゆしん深心しんしんが徹底てつていしたから、ふたたび迷まよわぬ身みになつた実感じつかんがあるのです。

20 仮け||この機こころはどうもなれないと思おもっている信仰しんごう。

真しん||この機こころがどうもなれないままで行いける処ところは、三悪道まくだうばかりです。本願ほんがんを信受うけとるしたら正定聚まよわぬの自覚じかくがあります。

21 仮け||この者ものをお助たすけと思おもっている信仰しんごうで、これは機法合体きぼうがったいの相けだにいるのです。

真しん||平生業成へいぜいごうじょうが徹底てつていしたのですから、助たすかった嬉うれしさよの慶よろこびです。

22 仮け||不平ふへいや愚痴ぐちの出でる信仰しんごう。

真しん||撰取せんしゆされて仏凡ぶつほん一体たいになつたのなら、不平ふへいや愚痴ぐちが御恩ごおんを喜よろこぶ種たねになつています。

23 仮け||十劫じゅうこつの昔むかしに助たすかっていると思おもっている信仰しんごう。

真しん||十劫じゅうこつの昔むかしに助たすかっているのなら、信心しんじんも安心あんじんもいりません。信楽しんがく開発かいはつした信しんの

一念ねんで助たすかるのです、その開発かいはつが浄土真宗じょうどしんしゅうの極意ごくいです。

24 仮け||この機こころに用事ようじはないと思おもっている信仰しんごう。

真しん|| この機こころに用事ようじがないのなら、十劫じゅうけつ已来こゝかた立たれる必要ひつようがありません。合点がってんする機こころの下したの動かぬ機こころを動かすための、親おやの念力ねんりきです。

25 仮け|| 喜よろこぶるときは参まいれそうな、喜よろこべないときは落おちそうな信仰しんごう。

真しん|| 自じ分の喜きど怒あいらく哀あ楽らくが往生おうじやうに關係かんけいしない信仰しんごうです。

26 仮け|| 善根ぜんこんをしたときは参まいれそうな、喧嘩けんか口論こうろんをしたときは落おちそうな信仰しんごう。

真しん|| 信しんに信功しんこうなく行ぎやうに行功ぎやうこうなしで、自じ分の行こうい為いを往生おうじやうの助太刀すけだちにさせない信仰しんごう。

27 仮け|| 晴はれたか暮くれたかわからない信仰しんごう。

真しん|| 信楽しんぎやく開發かいはつするまでは、晴はれたも暮くれたもわからないが、信しん一念ねんを突破とつぱさして

ただいたから、晴はれた味あじを鮮あざやかに体験たいげんさしていただいている。

28 仮け|| 大慶だいぎやく喜よろこまない信仰しんごう。

真しん|| 煩惱ぼんのうと菩提ぼだいとが体無たいむ二にですから、煩惱ぼんのうのあるところ何時いつも喜よろこびは動うごいていま

す。

29 仮け || 自力じりきがどんなものか知らないしんこう信仰しんこう。

真しん || 自力じりきがつかしたときに他力たうりき不思議ふしぎに生いかされたのですから、今いままでが自力じりきに導みちびかれていたことがよくわかります。

30 仮け || 疑うたがいがどんな心こころか知らないしんこう信仰しんこう。

真しん || 本人ほんにんは疑うたがってはいないつもりですが、晴はれていないのが疑うたがっているのですから、疑うたがって疑うたがって疑うたがい抜ぬいたとき、疑うたがいなく助たすかったという自覚じかくがつくのですから、今いままでがみな疑うたがいであつたことを知しらされるのです。

みなさん、法ほうの他力たうりきの効能こうのう書がきばかり聞きかされて、自じ分の心こころの病氣びようきは一ち寸すんも見みせてもらっていないのですから、素直すなおな真似まねばかりして、病氣びようきを包つつんで助たすかったつもりでいるのですから癌がんや無明業障むみょうごうじょうの恐おそろしい病やまいを知らないので。知しらないのですから、療治りょうじは一ち寸すんもしていないのです。療治りょうじをしていないのですから、全快ぜんかいした喜よろこびのある筈はずがありません。何年なんねんお聞ききになつても、機こころを見みると不安ふあんがででるのです。それで凡夫ぼんぶは

判然とするものではない、煩惱はやまないのだと疑いと三毒の煩惱とを混同して、死ななきや治らないように思っているのが浄土仮宗です。これを方便の術をうろついている信前というのです。

もういちど浄土仮宗の人の心持ちをいってみますよ。この人を信前の機、第二十願の人というのです。法の尊さを聞かされて感激はしていますが、悪い者と口ではいっています、機の醜さが判然と出ていないのです。ありがたい真似をしているだけで、実機が出ていないのですから摂取された実感がありません。三千世界を探しても、素直な人は一人もいませんのに素直な真似をしているのですから、晴れた天地を知りません。機を包んで法に調子を合わせているのですから、法が他力で機が自力ということを知りません。仏智満入とは痺れた心に届くのであって、機を見るのでないと包んでいるのですから、仏凡一体になれる筈がありません。一体になれていないから、大慶のある筈がありません。大慶喜のないのは摂取されていない、平生業成が確立して

いないからです。それで曖昧な、晴れたのやら晴れないのやら判らないから、若存若亡の信仰になり、凡夫は判然するものではない、死んだらお助けと思つている気休めをしてゐる信仰が浄土仮宗、贗物であります。

これは心の病気が、照らし出されていけないのです。三世の業障という恐ろしい病と聞き覚えただけで、観念の遊戯をしているのですから苦しくない、苦しくないから療治をしない、求道をしないから三仏から見捨てられた難化の三機、難治の三病が自分であることを知らない、邪見傲慢の悪衆生が自分であることを知らない、弊と懈怠が自分であることを知らないで、素直に聞いていると、話を聞いて理屈のわかつたのを体験したと思つてゐるのは机上の空論にすぎないから、全快した大慶喜がないのです。演習なら易いが、実戦は難しいですよ。第十八願から除かれたのが自分であつたと実感したときの恐ろしさ、苦しさは、筆舌の及ぶところでありません。無常観と罪悪観に攻めたてられて三定死の境地に立つたときは、時化に遇い怒濤に吞まれている

のだから、九死に一生を獲たときの大慶喜は、机上の空論や、畳の上で居睡り半分に
 聴聞し合点しているのとは、同日の論でないことぐらいはわかるでしょう。真剣に求
 道されないのは、心の病気が見えていない、根機が熟していないからです。自分の心
 が満足するまで求道し、地獄一定が極楽一定にさしていただき、現在、仏智が満入
 し、十方法界わが物なりと大満足してはじめて信前信後の水際が立つのです。精神的
 の大満足を獲たから一切の有碍に障りなし、神通自在、無碍自在になるのです。物質
 の多少の問題ではなく、無一物中無尽蔵の生活ができるのです。私の起居動作が報仏
 と一体の起居動作になるのです。それが歓喜の生活であり、懺悔の生活となるのであ
 ります。この世で晴（開發）れて大満足の生活をさしていただくのを、浄土真宗の行
 者というのであります。

◎

今までは法ばかり眺めて、有り難がって観念の遊戯をしていたのですから、今から

は機ばかり見せていただいて、実地の体験をしなければ一体にはなれません。機を見るのが異安心なら、法ばかり眺めているのは無安心です。法を眺めているのが第二十願、この機が開発されたのが第十八願。

◎ 身体が救われるものではありませんよ、心眼を開けば、いま攝取されるのですよ。

◎ 今が生死の苦海ですよ、弘誓の船に乗りましたか、この人世が光明の広海と変わっていないのは、生死の苦海に沈んでいるからですよ。

◎ 学問よりも体験の世界の尊さのあることを知らしむれば、私の出世本懐は達成されたのだから、これからは深妙の法を宣示していただきましょう。南無阿彌陀仏。

合掌。

◎ 利智精進の方がたは一度で理解ができましたが、愚鈍な私が実地の求道をしたとき、苦しき、これを導いてくださる知識がなかったので、心の病気に気がついて泣いておられる方の味方になって、共に泣いてあげます、必ず晴れた世界がありますから、必死に求道してください。

◎ 南無阿彌陀仏信前信後の水際のたたない人は、第十八願に攝取されてはいません。凡智がつきて仏智に生かされた人なら大決定、大満足、大歓喜、大懺悔があります。ない人は方便の術にいます。方便から真実へ、調熟の光明から攝取の光明へ、浅心から深心へ、自力から他力へ、真似から本物へ、合点から体験へ、漸進するのが果遂の誓のうえを前進しています。